

## 第11章 グローバル化

### 1. 現状の説明

(1) グローバル化に関するビジョン・方針を明確に定め、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

本学は、2014年8月28日開催の総合企画会議において、神戸学院大学「国際化ビジョン」-神戸学院大学の国際化に向けて-（以下、「国際化ビジョン」という。）を機関決定した（資料11-1、資料11-2）。

国際化ビジョンは、次のとおりである。

「神戸学院大学「国際化ビジョン」-神戸学院大学の国際化に向けて-

#### 1. 理念

国際都市「神戸」を舞台にした、「課題解決型グローバル人材」の育成

本学は、ポートアイランドキャンパスに、2014年には、アクティブラーニングを展開する現代社会学部を設置し、2015年には、グローバル・コミュニケーション学部を設置する予定であり、この結果、9学部・学生数10,000人を超える神戸で最大規模の私立大学となる。そこで、2つの新学部の設置を機に、本学が「学生の満足度の高い大学」であり続けるために、下記の＜神戸学院大学憲章（教育基本理念）＞＜全学のディプロマポリシー＞に基づき、新学部で展開されるアクティブラーニングおよびグローバル教育を全学レベルで展開し、学生の能力の向上と教員の教育力・研究力の向上を図るとともに、地域社会への還元を実現するべく、この度、上記理念の下、国際都市「神戸」に所在する大学としての強みを生かし、すべての学生・教職員を対象として、全学的に国際化を促進することを目的とした「国際化ビジョン」を策定し、グローバル社会における本学の発展を期することとした。

＜神戸学院大学憲章＞

教育基本理念

- ・生涯にわたる人間形成の基点となりうる教育
- ・生涯にわたり高い専門性を修得できる教育
- ・グローバルな視点から地域社会の多様なニーズに対応できる教育

＜全学のディプロマポリシー＞

- ・幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる。
- ・さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。
- ・生涯にわたって学び続けることができる。
- ・獲得した知識や技能を社会に役立てることができる。

#### 2. 目標

- ・学内の国際化
- ・日本人学生の海外留学の促進
- ・外国語教育の充実
- ・外国における日本人学生の就業力の育成、日本における外国人留学生の就職支援
- ・海外の大学等との連携
- ・大学所在地域の自治体・企業・高校・住民等のグローバル化への貢献

3. 達成目標値

- ・学生の海外経験の拡大（日本人学生の海外経験率を5年後、現状の5倍に）
- ・外国人留学生の受入拡大（外国人留学生数を5年後、現状の4倍に）
- ・教育・研究環境の整備（海外協定大学等の数を5年後、現状の2倍に）
- ・国際化推進ガバナンスの強化（外国人教員比率を10年後、現状の2倍に）

4. 国際化の推進のための全学的な体制の整備

「国際化推進機構」（仮称）（学長・副学長・学部長・事務局長・部長・センター所長・事務部長等）を設置し、全学的な国際化推進に関する方針の企画立案・実施を行う。国際交流センターと各学部・他部署は協働して「国際化ビジョン」を実行し、「国際化推進機構」（仮称）で検証するというPDCAサイクルを展開する。」

「国際化ビジョン」には、6項目の目標を掲げ、4項目の達成目標値を定めており、「国際化ビジョン」策定時（2014年5月1日現在）と2016年5月1日現在の達成状況は、以下のとおりである（資料11-3）。

- ・日本人学生の海外経験率： 2014年度 0.639%  
2015年度 0.561%
- ・外国人留学生数： 2014年5月1日現在 66人、  
2016年5月1日現在 61人
- ・海外協定大学等の数： 2014年8月28日以前 25校  
2016年10月1日現在 33校
- ・外国人教員比率： 2014年5月1日現在 1.863%  
2016年5月1日現在 1.881%

また、グローバル・コミュニケーション学部は、予定どおり2015年4月にKPCに設置した。

大学ホームページ「大学紹介 理念・概要」欄に「国際化ビジョン」を掲載して、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、本学のグローバル化に関するビジョン・方針を周知・公表している（資料11-1）。

（2）学内の国際化（環境整備を含む）をはかっているか。

a. グローバル化推進のための全学的な体制の整備について

本学は、2015年4月1日「国際化推進委員会」を設置し、グローバル化推進に関する方針の企画立案・実施を担う全学的な体制を整備した（資料11-4）。

また、グローバル化の企画・実施を担う担当部署として、国際交流センターを整備している。国際交流センターには、英語、中国語、フランス語に対応できるスタッフを7名配置している。

学部によっては、薬学部のように海外交流委員会を設置し、薬学研究科とも連携して活動しているケースがある（資料11-5）。海外交流委員のメンバーが中心となり、主にアメリカの薬科大学と連携を深めており、アメリカ薬学研修旅行の企画やアメリカの薬科大学からの研修生の受け入れを円滑に実施するための活動を行っている（資料11-6）。

b. グローバル化に関する学内の環境整備について

1. ICT環境を活用した語学教育システム（CALLシステム）について

本学では、2009年度よりパソコンによるICT環境を活用した語学教育システム（CALLシステム）を導入し、このシステムの機能を利用して、KPC6室、KAC3室の計9室で臨場感あふれる動画、音声等のマルチメディア教材を幅広く利用する効果的な語学教育が推進されている。教員のスキルに拘わらずCALLシステムの機能を活用してもらえよう、授業中に教員や学生からの質問に対応できる授業支援スタッフを配置している。e-learningシステムも日本語以外の言語に対応しており、外国人教員や留学生でも操作が可能となっている。

2. “English Plaza” 「い〜ぷら」について

国際化ビジョンに目標として掲げた「日本人学生の海外留学の促進」に基づき、2016年4月に本学のKPCとKACに「い〜ぷら」を開設した。「い〜ぷら」は学内で外国人と楽しく英語で話せるスペースで、ネイティブのスタッフとゲームやチャット、様々なイベントを通して楽しく英語を身につけることができる（資料11-7）。

3. 「図書館留学」について

教職協働の学習支援（語学力向上に向けて）の展開として、2011年度より、教員との連携のもと、学生の語学力向上を図った「図書館留学」を実施している。10種類のメニューからインプットとアウトプットを有機的につなげ、実践的な語学力が身に付くよう実施している。

2015年度の参加実績は、以下のとおりである（資料11-8）。①多読ラリー「てくてくEnglish」1,595人、②多聴ラリー「Englishシャワー」398人、③リーズ大学交換留学生と会話する企画「英語でTALK」65人、④中国籍の留学生と会話する企画「ニイハオ中国語」17人、⑤本学教員と英語で読書会を行う企画「Reading square」34人

4. 多言語による大学情報発信について

大学ホームページに英語版と中国語版を開設。Admission Information ページからは、Japan Study Support へリンクし、8か国語（日本語含む）で外国人留学生向けに入試情報を発信している（資料11-9、資料11-10）。また、大学ホームページに“国際交流”のグローバルバナーを配置し、関連ページへアクセスしやすくしている。

5. 教育の国際化、国際教育について

グローバル・コミュニケーション学部は当然のこととして、他の学部、研究科において、教育の国際化を目指した各種取り組みを行っている。

経営学部では、経営・商学コースにおいて、インターナショナル・モデルプランと名づけた履修モデルを学生に提供し、関連科目の履修を推奨している。また、このモデルと学部専門語学科目の内容を関連づけたカリキュラムが2015年度生より始動しており、英語教育・国際ビジネスに関わる教員を、他の文系学部と比較して、多数配置している（資料11-11）。

現代社会学部社会防災学科のカリキュラムに「海外実習Ⅰ」「海外実習Ⅱ」の授業科目があり、また、共通実習科目として「ボランティア・インターンシップⅠ」がある。この実習先としてフィリピンで活動した学生（2名）がいる。海外での実習に際し、学生の負担を軽減するため、独立行政法人日本学生支援機構の募集する「平成29年度海外留学生支援制度（協定派遣）」に2プログラム（カンボジア・フィリピン）を申請中である（資料11-12、

資料 11-13)。

薬学部では、薬物治療が正しく行われるために、外国人患者からの基本的な情報収集ならびに服薬指導を英語で行うことを目標としている(資料 11-14 医療英語コミュニケーション)。

学際教育機構スポーツマネジメントユニットのカリキュラムは、米国 NSCA (National Strength and Conditioning Association) の Education Recognition Program (ERP) プログラムで認定され、CSCS、NSCA-CPT 資格取得の認定校として国際的に認知されている(資料 11-15)。また、このユニットのカリキュラム自体がトレーニング関連の実習科目が多く、少人数制が基本となっている中で、資格取得を目指し国際的に活躍するチャンスが増えている(資料 11-16)。

人間文化学研究科では、英語論文作成を目的とした「英語論文作成ワークショップ I」「英語論文作成ワークショップ II」を研究科の共通の科目として開設している(資料 11-14 英語論文作成ワークショップ I、英語論文作成ワークショップ II)。

また、法学部では、「世界一大きな授業」や「国際関係講座」(外務省職員による出張講義)などを実施し、グローバルな視点や国際感覚の醸成を行っている(資料 11-17、資料 11-18)。前者は、国際教育であり、世界の教育の現状を世界中の NGO や教職員たちのネットワークを通じて学ぶことで教育の大切さについて考えるイベントであり、世界 100 カ国の小・中・高等学校、大学、専門学校などで一斉に開催することで、国際的な連帯感を高めると同時に、参加者の声を各国政府に届け、教育政策に反映するように働きかけることを目的としている。また、後者は、毎年外務省の職員を招いて国際的なトピックについて講演会を開催している。学外から一般市民も参加しているが、最新情報やその裏側にある現地情報・背景まで詳しく知ることができるとともに、外務省の仕事についても知る機会となっている。

### c. その他、学内の国際化に関して特色ある方策について

#### 1. FD 講演会・ワークショップについて

人文学部、グローバル・コミュニケーション学部、共通教育センターを中心とし、FD 講演会・ワークショップ「現代漢語散文朗読会」を実施した。講演会では中華人民共和国浙江大学桂迎教授による朗読の技巧・目的などを聞き、またワークショップでは各参加者の朗読に対し、講演者による批評、問題点の指摘など文法の正誤にとどまらない実践的かつユニーク活動を行っている(資料 11-19)。

#### 2. 海外研究員制度について

本学の海外研究員制度については、近年では特に「特別海外研究員」制度(滞在期間 2 か月以内)を利用して海外での学会発表や研究資料収集活動を行う教員が増えている。2006 年度の特別海外研究員制度の利用件数は 11 件、2010 年度は 19 件であったが、2015 年度には 37 件に上った(資料 11-20)。

#### 3. 「健康科学に関する研究助成金」制度について

本学独自の競争的学内研究費制度として「健康科学に関する研究助成金」制度がある。同助成金制度は、1980 年に薬学部創設 10 周年を記念して健康科学に関する教育研究への助成を行う目的で設置されたもので、自然科学分野であれ人文・社会科学分野であれ、健

健康科学に関する教育研究への助成を行うほか、健康科学に関する海外研究者との国際交流に対する援助も行う制度である。本制度を利用して本学教員が外国から研究者を招へいする場合には50万円を上限として必要経費が支給される。研究テーマが健康科学に限定されるという条件が付帯されているものの、利用しやすい制度となっている(資料11-21、資料11-22)。2012～2015年度の4年間に4名の外国人研究者の招へいが行われた。

(3) 外国人教員及び国内外留学生の支援は適切に行われているか。

a. 外国人教員および外国人留学生の受入について

1. 外国人教員の受入れについて

本学では、非常勤講師に留まらず、学部の専門教育を担当する外国人(外国籍)の専任教員を配置している。そのほか、外国大学において修士あるいは博士号を取得した教員がいる(資料11-3)。

また、「神戸学院大学特別客員教授規則」「神戸学院大学客員教授(国外)規則」「神戸学院大学外国人訪問教授(Visiting Research Professor)規程」「神戸学院大学外国人特別契約制教育職員規程」等を整備し、学部・研究科のニーズに応じた教員を招へいしている(資料11-23、資料11-24、資料11-25、資料11-26)。さらに、「神戸学院大学外国人研究員(Visiting Scholar)規則」「神戸学院大学外国人奨励研究員規程」を設け、外国人研究員の受入れや、招へいを行っている(資料11-27、資料11-28)。

2. 外国人留学生入学試験について

外国人留学生入学試験を、グローバル・コミュニケーション学部(日本語コース)では年4回、法・経済・経営・人文・現代社会・総合リハビリテーション(社会リハビリテーション学科)・栄養学部は年2回、薬学部は年1回実施している。選考方法は書類(日本留学試験成績・履歴書・志望理由書・各種証明書)審査、小論文(日本語で記述)、筆記試験(4学部のみ実施で、3学部が英語、1学部が英語・化学)および面接で、各学部のアドミッション・ポリシーに則った内容となっている(資料11-29)。また、研究科においても、総合リハビリテーション学研究科を除き、外国人留学生入学試験を実施している(資料11-30)。

2015年度より、外国人留学生を対象としたグローバル・コミュニケーション学部(日本語コース)を設置し、日本語学校訪問や外国人を対象とした入試説明会に出席するなど積極的に受け入れを行っている。また、日本への留学希望者に対して外国人向けの情報サイト「JAPAN STUDY SUPPORT」((公財)アジア学生文化協会と(株)ベネッセコーポレーションが共同運営)に参画し、出願促進を行っている。2016年度外国人留学生入試(全学部)の志願者は33名、合格者30名、入学者22名であった。2014年度と比べると志願者数で3倍、入学者数で11倍となっている(資料11-31、資料11-32)。

3. 外国人留学生在籍状況について

2016年5月1日現在の本学に在籍している留学生は、学部生42名、大学院生10名、交換留学生9名計61名である。国籍別では、中国が50名、韓国4名、イギリス3名、ベトナム2名、カンボジアとインドネシアが各1名である(資料11-33 18-1.留学生(学部)、18-2.留学生(大学院))。

4. 外国人留学生に対する生活支援について

新入外国人留学生オリエンテーションを実施し、その資料を日本語、英語、中国語の3カ国語で作成して、日本の生活習慣に不慣れな新入留学生の理解が深まるよう配慮している（資料 11-34、資料 11-35、資料 11-36）。

5. 留学生指導員について

外国人留学生に充実した教育環境を提供するため、国際交流センターに留学生指導員を配置している。留学生指導員は、国際交流ラウンジで、留学生から寄せられる様々な相談（勉学、生活、就職活動等）に応じている。学習面では、履修科目の単位取得に向けての支援を、生活面では、住居環境等でのトラブル回避対策、基本的な行政手続きやその情報提供等の支援を行っている。さらに、留学生指導員は日本語教師の経歴を有していることから、日本語能力試験を受験する留学生に対して、模擬試験などの試験対策を行っている（資料 11-37）。

6. スチューデントアシスタントについて

留学生の大学生生活をサポートする役割として、日本人学生によるスチューデントアシスタント制度を設けている。また、留学生との交流を通じて、国際的な視野を広げ異文化理解を深めることもその目的としている。また、本年度より、1人の交換留学生に対して、最大で2名の日本人学生がパートナーとして、日本での生活のサポートをする「学生ボランティア」としてバディ制度を導入した（資料 11-38）。

b. 日本人学生の海外留学等（海外研修を含む）について

1. 学生の語学力向上の取り組みについて

英語圏への留学を志望する学生を対象として、語学力向上のための英語講習を実施している。2015年度後期より、従来の TOEFL iBT テスト対策講座に加えて、IELTS テスト対策講座を開講している。さらに、2016年度は、両対策講座の初級編をKACで、中級編をKPCで開講することになり、学生の更なる語学力向上を図ることになっている（資料 11-39）。

また、グローバル・コミュニケーション学部では、学部ディプロマ・ポリシーに「実践的で高度な外国語の運用ができる」こととなっているため、英語コース、中国語コースにおいては第5セメスターに海外語学研修を実施することがカリキュラムにおいて規定されている（資料 11-40、資料 11-41）。

2. 交換・派遣留学を促進する制度について

本学では、交換・派遣留学を促進するために、「神戸学院大学交換・派遣留学奨学金支給規程」を設け、奨学金を支給している。この奨学金は、交換・派遣留学生に採用された学生の中から、語学検定成績、学業成績及び面接によって選考される。語学検定試験の成績によって、交換留学生には、第1種交換留学奨学金（年額 60 万円）または、第2種交換留学奨学金（年額 30 万円）が、派遣留学生には、第1種派遣留学奨学金（派遣先大学における授業料相当額及び 60 万円）または、第2種派遣留学奨学金（派遣先大学における授業料相当額の2分の1及び 30 万円）が、支給される（資料 11-42、資料 11-43）。

グローバル・コミュニケーション学部では、以上の他に学部独自の奨学金も用意している。また、危機管理については危機管理セミナーの実施、危機管理支援企業の紹介等により十分なサポートを行っている（資料 11-44）。

c. 外国語教育の充実について

1. 神戸学院カレッジについて

2014 年度に策定された神戸学院大学国際化ビジョンに沿って、2016 年度より語学力向上プログラムとして、神戸学院カレッジを実施している。神戸学院カレッジは、英語学習に特化したプログラムを開設し、英語力を伸ばしたいと希望する学生に対応した言語プログラムを提供するとともに、全学を挙げてグローバル人材の育成に取り組むものである（資料 11-45、資料 11-46、資料 11-47）。また、上級者に特化した英語教育を充実させ、神戸学院カレッジ生の学習意欲の向上を図っている。さらに、夏期集中講義として「チャレンジャー英会話」を開講し、きわめて実践的な英語運用能力の養成を行っている（資料 11-14 チャレンジャー英会話）。

## 2. 専門教育科目としての語学科目

グローバル・コミュニケーション学部では、3 年次以降も実践英語を開講することは当然のこととして、人文学部においても、人文学科の専門教育科目として、「基礎英語学」や「日英対照表現法」といった授業を開講し、共通教育科目に留まらない語学教育を展開している（資料 11-48 p. 48-83）。

## 3. 英語以外の外国語について

2015 年 11 月に K P C と K A C で、ドイツ政府が設立した公的な国際文化交流機関 Goethe-Institut（ドイツ文化センター）の研修生を「中級ドイツ語」授業に招き、言語学習ならびに文化的交流を実施した。2016 年度も実施する予定である（資料 11-49）。

中国語科目では、原則として、文法・閲読系は日本語を母語とする教員、会話・コミュニケーション系は中国語を母語とする教員が授業を担当している（資料 11-50）。

朝鮮（韓国）語科目では、2 人 1 組で授業を行う場合、日本語を母語とする 2 人の教員が 1 つの組にならない教員配置に努めている（資料 11-51）。

なお、人文学部では、人文学部賞を設け、TOEIC や TOFEL といった英語の語学試験だけでなく、中国語検定、フランス語検定、ドイツ語検定、ハンガリー語検定といった複数の言語に関する検定試験において一定水準以上の成績を収めた学生を顕彰し、語学検定への受験を推奨している（資料 11-52）。

## d. 外国における就業力の育成、日本における外国人留学生の就職支援について

### 1. 外国人留学生に対するキャリア支援について

本学のグローバル化に関するビジョン・方針に沿って、キャリアセンターは、「国際化ビジョン」の 6 項目の目標のうち「外国における日本人学生の就業力の育成、日本における外国人留学生の就職支援」に対応した就職支援を国際交流センターと協働して実施している。

国際交流センターは、外国における就業力の育成を目的とする「海外インターンシップ」を実施するための情報収集と調査を行い、実施に向けての検討の結果、2017 年 3 月 20 日から 1 週間本学の学生 1 名がクイーンズランド大学附属英語学校奨学生としてオーストラリアのブリスベン市役所でインターンシップに参加することを決定している（資料 11-53）。

キャリアセンターは、外国人留学生担当のスタッフを配置し、適切に相談対応が行える体制を整えている他、日本人学生と同様に参加できる各種キャリア支援行事以外にも、日本での就職活動に係る情報提供や外国人留学生に特化した就職ガイダンスを実施している（資料 11-54）。

本学が加盟している大学コンソーシアムひょうご神戸が主催する「ひょうご留学生イン

ターンシップ」に、毎年本学の外国人留学生が参加している。国際交流センターでは、学校推薦者の外国人留学生に対して、出願表の書き方や模擬面接指導など、力強くサポートしている（資料 11-55）。

e. その他、外国人教員及び国内外留学生の支援に関して特色ある方策について

大学として、私費外国人留学生で、本学の学生としてふさわしく、勉学の意欲があり、経済的理由により修学が困難な者に、「神戸学院大学私費外国人留学生学費一部免除規程」に基づき、選考の上、年間1人につき学費の30%を免除している。また、私費外国人留学生で、修学の熱意があるにもかかわらず、経済的理由により修学が困難な者に、「神戸学院大学私費外国人留学生奨学金規程」に基づき、選考の上、年間1人につき36万円を支給している。なお、2015年度に開設したグローバル・コミュニケーション学部（日本語コース）の年次進行に対応して、2014年度20人であった私費外国人留学生奨学金採用枠を、2015年度に31人、2016年度に36人とした。また、私費外国人留学生学費一部免除のための予算を、2015年度に前年度比1.5倍とし、2016年度も継続している（資料 11-56、資料 11-57、資料 11-58）。

法学部では、年1度、学生（学部より3名程度参加）による英語スピーチ大会を実施している。参加大学は、本学のほか、韓国から、朝鮮大学、中国からは、浙江工業大学、浙江工商大学の4大学である。英語スピーチ大会に関しては、複数の引率担当教員がチームとなり、スピーチを行う学生に対して内容やプレゼンテーションの指導を積極的に行っている。その際、とりわけ注意を払っているのは、学生が関心を寄せるグローバルなイシューに対して、いかに幅広くより根源的な、すなわち世界に通じるような問題意識を持てるようにするかである。日本的な発想に囚われないグローバル人材を育成することがここでは目指されている。また、英語スピーチ大会が開催される会場は、参加大学の輪番制となっており、学生にとっては、参加大学の学生ならびに現地大学の学生との異文化交流の場として機能している。英語スピーチ大会における学生の発表内容は、毎回、冊子にまとめられ、その成果が発表・保存される。その様子は、教授会において報告されるとともに、同冊子も回覧される（資料 11-59）。

（4）海外の大学等との連携や地域のグローバル化への貢献をはかっているか。

a. 海外の大学等との連携について

「国際化ビジョン」に、「海外協定大学等の数を5年後、現状の2倍に」という達成目標値掲げ、国際交流センターでは、グローバル・コミュニケーション学部をはじめ各学部と連携を強化して、海外協定大学等の増加を図っている。

なお、「国際化ビジョン」策定以前の協定校は9カ国25校で、2014年8月28日以降9校の大学等と協定を締結している。9校の大学には、グローバル・コミュニケーション学部のセメスター留学先であるケンブリッジ大学ヒューズホール、北京語言学院、ワイカト大学が含まれている。さらに、同学部のセメスター留学先として、暨南大学と今後協定を締結する予定である（資料 11-60、資料 11-61）。

2017年度は、「国際化ビジョン」の策定から3年目の中間年を迎えることから、今後、2017年度末までに15校の増加を図ることを目標とする。

また、薬学部、薬学研究科においては、デューク大学（ペンシルベニア州）、アリゾナ



大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）と交流協定を締結している。この交流協定締結校を中心として、毎年春と秋の年2回、米国の薬科大学から客員教授を招聘している。滞在期間は約1カ月で、学部学生に対しての臨床講義を行っている。春の客員教授の講義は「海外の薬剤師に学ぶⅠ」で秋の客員教授の講義は「海外の薬剤師に学ぶⅡ」として、アドバンス科目にも指定されている。また、協定校を訪問するアメリカ薬学研修旅行も2年に1度実施している（資料 11-62）。この研修旅行は協定校だけでなく、同時に他大学へも訪問し、キャンパスツアー、講義への参加、学生間交流を通じて、米国の薬学教育プログラムを学ぶものである。さらに現地の医療機関（病院、薬局、製薬企業等）を訪問し、薬剤師の役割を学ぶ。この薬学研修プログラムは、「海外の薬剤師に学ぶⅠ」として、単位認定を受けられるアドバンス科目でもある（資料 11-14 海外の薬剤師に学ぶⅠ）。研修においては、学生は各自の研修テーマを持ち、それについて日米比較の調査研究を行い、薬学研究科とも連携して、その成果を学会や論文にて発表している（資料 11-63、資料 11-64）。この研修会は1977年に開始され、ほぼ40年の歴史を誇っている。さらにこれまでに上海交通大学や南方医科大学との研究交流セミナーやジョイントシンポジウムなどが行われ、双方の教員の交流が行われている（資料 11-65）。また、本学の教員がアメリカの提携姉妹校から客員教授として招へいされている。現地では、薬学生の臨床実習指導に加わったり、日米相互の医療制度の違いをプレゼンテーションすることで、お互いの交流を図っている（資料 11-66）。

b. 大学所在地域の自治体、企業、高校、住民等との連携・貢献について

国際化ビジョンに沿って、社会のグローバル化への連携・貢献活動を種々行っている。

高等学校に対しては、兵庫県立伊川谷高等学校の学校設定科目「異文化交流」の講師を全学部の教員が務め、高校生の国際理解教育の推進を目的に、教員の専門に関連した多様なテーマの講義を行っている。また、兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校の「総合的な学習」で法学部の教員が国際関係法や国際連合、グローバル化をテーマにした講義を行うとともに、模擬国連の見学や、大学図書館で資料収集の指導も行っている（資料 11-67 p. 56、資料 11-68、資料 11-69）

住民等に対しては、小学生とその保護者を対象とした「作って遊んで楽しく英語を学ぼう」を企画し、日本と海外のクリスマス文化の違いを、工作などを通じて英語で学ぶワークショップを経営学部教員が実施したほか、神戸市連携事業「大学都市 KOBE 発信プロジェクト」の一環で、法学部教員が貿易ゲームで世界経済の仕組み、貧困問題、国際協力を考える小学生とその保護者対象のワークショップ「KOBE こども大学」をグランフロント大阪「ナレッジキャピタル」（知的創造拠点）で実施した（資料 11-70、資料 11-71）。また、本学地域研究センターでは人文学部教員が明石市の古民家を活用して、諸外国の文化や風習を地域住民と考える「大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ」を2015年度より開催したほか、本学は明石市国際交流協会の賛助会員として、経済学部教員が「ロシア語・ロシア文化講座」を実施するなど、地域の国際理解にも寄与している（資料 11-72、資料 11-73 p. 14）。

自治体に対しては、外国人が多い神戸市中央区の外国人コミュニティと行政の協働事業「多文化交流フェスティバル」にグローバル・コミュニケーション学部の教員と学生が実行委員として企画から携わり、多文化共生のまちづくりに貢献したほか、神戸市主催の「英語による神戸観光の討論会」に法学部・経営学部・人文学部の学生が参加し、神戸のイン

バウンド戦略について神戸市長を交えて英語による討論を行い、英語によるコミュニケーションやホスピタリティについて考えるなど、地域のグローバル化への取り組みに参加している。また同市が、外国公館や外資系企業、外国人市民の意見交換の場として開催している新春国際親善パーティに経営学部の外国人教員も出席するなど、同市の国際交流事業にも積極的に参加している（資料 11-74、資料 11-75、資料 11-76、資料 11-77）。

その他、経営学部・法学部教員主催のサステナビリティ研究会にオランダ王国前首相を招き、学生も交えて持続可能性に関連した災害リスクマネジメントなどについて研究報告と討論を行った（資料 11-78）。

c. その他、海外や地域との連携・貢献に関して特色ある方策について

経済学部では、2015年度に、経済学部生の企画提案が外務省所管の日露青年交流事業に採択され、同年9月にモスクワ大学において「日露アニメ・オタク文化学生サミット」が開催された（資料 11-79、資料 11-80）。2016年度に、日本政府が推進する対日理解交流促進プログラム「日露青年交流事業」として同年11月に2日間に渡りロシア全土から40名のロシア人大学生を受け入れた。学部の受け入れゼミを中心に60名の学生とともに「第2回日露アニメ・オタク文化学生サミット」を開催した。その際に、神戸市企画調整局創造都市推進部デザイン都市推進担当課長の協力のもと、神戸電子専門学校と連携して、同校デジタルアニメ学科で、ロシア人大学生8名を対象にアニメーションの作画体験を行った。2016年6月、学部学生が、独立行政法人北方領土問題対策協会が実施した北方4島交流事業に参加し、択捉島を訪問し、ロシア人島民と交流した（資料 11-81）。

薬学部、薬学研究科は、アジア地域における薬科大学が薬学教育の取り組みを発表するアジア薬学協議会において、第5回大会より毎回薬学教育の取り組みをポスター発表し、他大学の薬学教育に携わる教員と学生教育について議論している（資料 11-82）。さらにアジア薬学協議会の主催するDean Forum（ディーンフォーラム）においても、第3回の大会（東京で開催）から毎回 school poster を発表している（資料 11-83）。

（5）グローバル化の適切性について定期的に検証を行っているか、また、検証結果をもとに改善に向けた取り組みを行っているか。

グローバル化推進に関する全学的な方針の企画立案・実施、グローバル化の適切性を検証する責任主体・組織として、国際化推進委員会を設置した（資料 11-4）。

国際化推進委員会は、学長、副学長、各学部長及び各研究科長、事務局長、共通教育センター所長、教務センター所長、教務センター事務部長、国際交流センター所長、国際交流センター事務部長、国際交流支援グループ長をもって構成している。

本学の国際化を推進するため、国際交流センターは、各学部・他部署と連携して「国際化ビジョン」を実行し、「国際化推進委員会」で検証するというPDCAサイクルを展開している。

2. 点検・評価

●基準 11 の充足状況

本学は、全学的な国際化推進に関する方針「国際化ビジョン」を策定し、学内に周知するとともに本学ホームページで社会に公表している。国際化ビジョンに沿って、い～ぷら、

図書館留学などを実施し学内の国際化をはかるとともに、外国語教育を充実させるため、神戸学院カレッジなどを実施している。また、海外の大学等との連携や地域のグローバル化に寄与している。このようなグローバル化推進のため、国際化推進委員会並びに国際センターを設置し、国際化ビジョンの企画立案および実施を担う体制を整えている。

以上の点から本学は、国際化ビジョンの目標・達成目標値の達成に向けた取り組みを推進している。

#### ①効果が上がっている事項

長期留学（交換・派遣留学）を希望する学生に対して、TOEFL iBT テスト対策と IELTS テスト対策講座を大学の補助による格安な料金で開講し、2つのキャンパスの受講生が受講しやすい体制を構築することができた。2015年度の受講者数は TOEFL iBT テストコース（19名）、IELTS コース（9名）であった（資料 11-84）。2016年度から神戸学院大学同窓会寄贈事業・留学経費補助金により、これらテストの受験費用の補助を実現することができた（資料 11-85）。

「国際化ビジョン」策定後、本学の海外協定大学は、2年足らずで9校の増加と達成目標値（5年後現状の2倍に）のクリアに向けて、着実に成果を上げている（資料 11-60、資料 11-61）。

2015年のグローバル・コミュニケーション学部開設を機に、学内のグローバル化に対する意識が一層高まっており、多文化交流フェスティバルや英語による神戸観光の討論会、新春国際親善パーティへの参加など外部から国際交流に関する協力依頼が増えている（資料 11-74～資料 11-77）。

#### ②改善すべき事項

現状では、ICT環境を活用した語学教育システム（CALLシステム）を利用している教員の数は少なく、熱心に活用している教員とそうでない教員の温度差が大きい。CALLシステムやe-learningシステムの画面は多言語に対応しているものの、外国人教員の利用が今のところほとんどない。

英語圏からの留学生が少数である（資料 11-33 18-1. 留学生（学部）、18-2. 留学生（大学院））。

外国における就業力の育成を目的とする「海外インターンシップ」を実施していないため、各学部、キャリア教育センター、国際交流センターの協働が喫緊の課題である。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

TOEFL iBT テスト対策と IELTS テスト対策講座の効果をより高めるために、リスニングとスピーキングのパートをネイティブの講師が担当する講座を開講する。

英語力の向上が、長期留学、就職、あるいは夢の実現に結びつくことを示すガイドラインを作成し、学生に広く提示する。ガイドラインの作成は、2017年4月1日に学生に配布できるように準備を進める。

グローバル・コミュニケーション学部をはじめ各学部との連携を一層強化して、海外協

定大学等の更なる増加を図る。

今後、地域社会のグローバル化への連携・貢献活動における取り組み成果を生かし、事業に繋がるようグローバル化への取り組みを本学のホームページや Facebook で学内外に発信する。

## ②改善すべき事項

より多くの語学授業へCALL教室を割り当てられるように時間割を調整し、教員へCALLシステムの周知（学内情報サービスのお知らせ機能や、レターボックスへの文書配付）を行う。日本語の資料では内容が理解しづらい外国人非常勤教員向けに、外国語での周知活動を行う。

英語圏の協定校を増やす。また、既存の協定校で現在交換留学を実施していない協定校と交換留学を実施し、国際化ビジョンの数値目標を達成する。

外国における就業力の育成を目的とする「海外インターンシップ」を実施するための情報収集と調査の一環として、京都産業大学、桃山学院大学、追手門学院大学に赴き、実施に向けて検討を開始した。

2017年3月20日から1週間本学の学生1名がクイーンズランド大学附属英語学校奨学生としてオーストラリアのブリスベン市役所でインターンシップに参加することが決定した（資料11-53）。

## 4. 根拠資料

資料11-1 本学ホームページ 国際化ビジョン

<http://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/international.html>

資料11-2 総合企画会議議事録（抜粋）（2014年8月28日）

資料11-3 国際化推進委員会資料（2016年7月28日）

資料11-4 神戸学院大学国際化推進委員会規則

資料11-5 薬学部教授会資料（2016年3月10日）

資料11-6 薬学部海外交流委員会議事録（2015年度）

資料11-7 English Plaza

資料11-8 2015年度までの図書館留学実績（既出 資料7-38）

資料11-9 本学ホームページ（英語版）

<http://www.kobegakuin.ac.jp/english/>

資料11-10 本学ホームページ（中国語版）

<http://www.kobegakuin.ac.jp/chinese/>

資料11-11 経営学部オリジナルホームページ 経営・商学コース

<http://www.ba.kobegakuin.ac.jp/~ba/course/business.html>

資料11-12 授業別受講者人数表

資料11-13 海外留学生支援制度申請

資料11-14 本学ホームページ シラバス検索システム(学部・大学院)（既出 資料3-113）

<https://infp.j.kobegakuin.ac.jp/portal/faces/login/Com00501B.jsp>

- 資料11-15 NSCAジャパン認定校
- 資料11-16 本学ホームページ スポーツマネジメントユニット  
[http://www.kobegakuin.ac.jp/facility/education\\_mechanism/sports\\_management/](http://www.kobegakuin.ac.jp/facility/education_mechanism/sports_management/)
- 資料11-17 5/13 「世界一大きな授業2016」を開催します
- 資料11-18 法学部オリジナルホームページ 国際関係講座「創る平和-日本としての国際平和協力-」を開講します  
<http://www.law-kobegakuin.jp/wp/?p=76>
- 資料11-19 FD活動（出張）報告書（2016年6月18日）
- 資料11-20 神戸学院大学海外研究員規程（既出 資料3-170）
- 資料11-21 神戸学院大学健康科学に関する研究助成基金規程（既出 資料7-48）
- 資料11-22 神戸学院大学健康科学研究助成金実施要項（既出 資料7-49）
- 資料11-23 神戸学院大学特別客員教授規則
- 資料11-24 神戸学院大学客員教授（国外）規則
- 資料11-25 神戸学院大学外国人訪問教授(Visiting Research Professor)規程
- 資料11-26 神戸学院大学外国人特別契約制教育職員規程
- 資料11-27 神戸学院大学外国人研究員(Visiting Scholar)規則
- 資料11-28 神戸学院大学外国人奨励研究員規程
- 資料11-29 2016年度 外国人留学生 入学試験要項（既出 資料5-38）  
<http://www.kobegakuin.ac.jp/admission/01information/info/admissions/pdf/2016gaikokujin.pdf>
- 資料11-30 2016年度 大学院入学試験要項(外国人留学生)（既出 資料5-44）  
[http://www.kobegakuin.ac.jp/admission/postgraduate/2016/pdf/2016graduate\\_gaikoku.pdf](http://www.kobegakuin.ac.jp/admission/postgraduate/2016/pdf/2016graduate_gaikoku.pdf)
- 資料11-31 神戸学院大学 2016年度入試集計  
[http://www.kobegakuin.ac.jp/\\_files/examresult/files/result2016.pdf](http://www.kobegakuin.ac.jp/_files/examresult/files/result2016.pdf)
- 資料11-32 神戸学院大学 2014年度入試集計  
[http://www.kobegakuin.ac.jp/\\_files/examresult/files/result2014.pdf](http://www.kobegakuin.ac.jp/_files/examresult/files/result2014.pdf)
- 資料11-33 2016年度版 神戸学院大学データ集（既出 資料3-95）  
[http://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/pdf/daigaku\\_data\\_2016.pdf](http://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/pdf/daigaku_data_2016.pdf)
- 資料11-34 イベントカレンダー 2016年4月
- 資料11-35 交換留学生のための 生活案内 2016年度前期
- 資料11-36 留学生生活指南概要
- 資料11-37 2016 留学生指導員 計画書
- 資料11-38 「新入留学生歓迎会」を開催しました
- 資料11-39 TOEFL iBT・IELTSテスト 対策講座 初級編 受講者募集
- 資料11-40 本学ホームページ 大学概要 - 教育情報 - ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)（既出 資料3-57）  
<http://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html>

- 資料11-41 本学ホームページ 大学概要 - 教育情報 - カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針) (既出 資料3-45)  
<http://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.htm>  
1
- 資料11-42 神戸学院大学交換・派遣留学奨学金支給規程
- 資料11-43 神戸学院大学交換・派遣留学奨学金取扱細目
- 資料11-44 神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部 Semester 留学奨学金取扱細目
- 資料11-45 神戸学院カレッジ生 募集
- 資料11-46 神戸学院カレッジ 募集要項
- 資料11-47 「神戸学院カレッジ (仮称)」 「世界にはばたけ! プログラム (きみの翼を広げよう!)」 英語力向上プログラム (SE クラス)
- 資料11-48 履修の手引 2016 人文学部 (既出 資料1-25)
- 資料11-49 共通教育活性化プログラム活動計画書
- 資料11-50 中国語2016年度時間割 (非公開)
- 資料11-51 朝鮮 (韓国) 語2016年度時間割 (非公開)
- 資料11-52 「人文学部賞」 推薦のお願い
- 資料11-53 KOBE-BRISBANE SISTER CITY SCHOLARSHIP 2017 (クイーンズランド大学附属英語学校 奨学生) 募集について
- 資料11-54 留学生限定 就職ガイダンス
- 資料11-55 ひょうご留学生インターンシップ
- 資料11-56 神戸学院大学私費外国人留学生学費一部免除規程
- 資料11-57 神戸学院大学私費外国人留学生奨学金規程 (既出 資料6-25)
- 資料11-58 私費外国人留学生支援関係予算 (まとめ)
- 資料11-59 浙江工業大学法学院で英語スピーチ大会に参加しました
- 資料11-60 国別協定締結数リスト
- 資料11-61 大学間協定等締結状況
- 資料11-62 薬学部オリジナルホームページ アメリカ薬学研修  
[http://kobegakuin-yakugaku.jp/student\\_life/phtraining/](http://kobegakuin-yakugaku.jp/student_life/phtraining/)
- 資料11-63 第18回 近畿薬剤師学術大会 in神戸 要旨集
- 資料11-64 アセトアミノフェンを用いた疼痛治療の実態調査
- 資料11-65 中国との交流プログラム
- 資料11-66 デューク大学への客員教授招聘報告書
- 資料11-67 KOBE GAKUIN UNIVERSITY 社会連携事業紹介 2015 (既出 資料4 (2) -75)
- 資料11-68 兵庫県立伊川谷高等学校 「異文化交流授業」
- 資料11-69 兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校 「総合的な学習」 2014~2016
- 資料11-70 『KOBE こども大学 クリスマス企画』 作って遊んで楽しく英語を学ぼう (既出 資料8-32)
- 資料11-71 神戸市×神戸学院大学 『KOBE こども大学』 貿易ゲームで体験!
- 資料11-72 本学ホームページ 神戸学院大学 地域研究センター (既出 資料4 (2))

-79)

<http://www.kobegakuin.ac.jp/~card/chiiki/>

- 資料11-73 KOBE GAKUIN UNIVERSITY 社会連携事業紹介 2014 (既出 資料4 (2) -83)
- 資料11-74 第9回 多文化交流フェスティバルに本学学生がボランティアとして参加しました
- 資料11-75 「第9回多文化交流フェスティバル」のボランティア募集について (依頼)
- 資料11-76 「英語による神戸観光の討論会」参加学生ご推薦のお願い
- 資料11-77 「2015 新春国際親善パーティ」について (ご依頼)
- 資料11-78 オランダのバルケネンデ前首相が来校されました
- 資料11-79 日露青年交流事業通知
- 資料11-80 日ロ政府間協定に基づく青年交流事業「日ロアニメ・オタク文化学生サミット」
- 資料11-81 岡部准教授と学生2人が択捉島を訪れます (facebook 2016.6.30)
- 資料11-82 学会要旨、5th AASP Conference, 6th AASP Conference, 7th AASP Conference
- 資料11-83 3rd AASP Pharmacy Deans Forum 2014 第3回アジア薬科大学協会 薬学部長フォーラム
- 資料11-84 TOEFL iBTテスト対策講座・IELTSテスト対策講座受講者数
- 資料11-85 TOEFL iBT・IELTSテスト 対策講座 中級編 受講者募集